2023年度 ジュマ・ネット年次報告書

Annual Report 2023

Jumma Net

目次・ご挨拶 …… 1
ジュマ・ネットとは …… 2
ジュマの若者活動家ネットワーク構築 …… 3
紛争・内紛被害児童教育支援 …… 5
バンダルバン …… 7
ミャンマー避難民支援 …… 9
被害家族再建・自立支援 …… 9
財務諸表 …… 10

ご挨拶

ジュマ・ネット　事務局長
稲川 望

2023年は、暗闇と希望が入り混じる一年でした。2022年末から不安定化したバンダルバン県の情勢は未だ先行きが見えない状況です。繰り返される戦闘で一般市民の生活が脅かされる事態が一年以上にわたっていることから、ジュマ・ネットも三度にわたる食糧支援を実施して現地の状況をモニタリングしつづけています。

一方で、新しい光を探し求めた一年でもありました。2023年度より新たに模索している、ジュマの若者活動家とのネットワーク構築です。昨年は、政党に所属する若手へのアクセス、ヒアリングを通じた意見交換に挑戦してきました。それぞれのイデオロギーやビジョンを掲げるその言葉の先に、何を見ているのか。もう一度つながりあう糸口があるのではないだろうか。そんな希望を胸に、一歩ずつですが、前に向かって歩んでいます。

いつもジュマ・ネットの活動と共にいてくださりありがとうございます。2023年度の報告をお読みいただきながら、ぜひ一緒にチッタゴン丘陵に思いを馳せていただけたら嬉しいです。

ジュマ・ネット　スタッフ
村上　弥優

「内紛が起こっている地域、迫害されている人々」こうした言葉を聞くと、非常に大きな問題であり、解決が難しいという漠然としたイメージを持ちます。そして、その言葉の印象の強さから、そこに暮らす人々の日常や、彼らが私たちと同じ時間を生きていることに目を向けるのが難しく感じることもあります。

しかし、国や地域といった大きなまとまりだけでなく、そこに暮らす人々の“今”を知ることで、実際には社会を構成する要素が少し異なることで違いが生まれた別の環境に生きているに過ぎず、そこに暮らす人々も私たちと同様にそれぞれの日常を持っているという当たり前のことに実感が湧きました。そして、どんな社会もそれを構成するのは一人一人の人間であり、出来事の背景にはそこに至るまでの経緯があることにも気づきました。その結果、こうした地域に対する社会活動で、一人一人に向き合って働きかけることや出来事の背景を理解することが社会を変えていく力を持つことに、初めて納得できたように思います。

この報告書では、活動報告を通じて現在起こっている出来事やその背景、人々の日常を皆さんに知ってもらい、少しでもチッタゴン丘陵の今を想像しやすく、身近に感じてもらうことを目指して作成しました。この冊子を読んでいただくことが、少しでもジュマ社会や私たち自身の社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

ジュマ・ネットとは

私たちは、2003年に設立されたNGOで、バングラデシュ・チッタゴン丘陵の平和促進と少数民族の公正な権利のために活動しています。「ジュマ」とは、チッタゴン丘陵に住むモンゴロイド系少数民族の総称であり、ベンガル語で「焼畑を行う人」という意味を持ちます。
「すべての抑圧されるエスニック・マイノリティのために」を合い言葉に、誰もが公正で安心して生きられる社会づくりを目指しています。

1 バングラデシュ・チッタゴン丘陵

国土の10%ほどを占め、ジュマと呼ばれる11の民族が暮らす。内戦後も抑圧や人権侵害が続く。

2 インド・ミゾラム州

バングラデシュとミャンマーに挟まれるように位置する。ほとんどが山岳地帯で、ミゾと呼ばれる少数民族がマジョリティを占める。

2023年度 活動トピック

ジュマの若者活動家ネットワーク構築 ･･･ p.3

チッタゴン丘陵の平和に対する新たな運動を構築するため、ジュマ活動家のネットワーク構築に挑戦してきました。特に若年層にフォーカスすることで、既存の政党間の内部分裂を乗り越えた連帯を目指しています。2023年度はキーパーソンとなる若手活動家との接触や対話を行いました。活動家コミュニティ形成や協議の場を設定し、ジュマ主導のアクションを目指していきます。

紛争・内紛被害児童教育支援 ･･･ p.5

2023年度は、児童16名に奨学金給付を実施しました。一昨年度は紛争被害児童支援として12名に奨学金支援を行って参りましたが、そのうち3名は2023年度より内紛被害児童教育支援の分類として実施いたしました。
また、新たにキャリア教育活動にも取り組み始めています。2023年度はバングラデシュ国内で先進的な取り組みを行うキャリア教育校への訪問研修等のテストケースに取り組みました。

被害家族再建・自立支援 ･･･ p.9

チッタゴン丘陵の内紛被害家族の経済的な再建・自立の実現を目指すプロジェクトです。今年度は1家族の支援をテストケースとして実施しました。
2023年度は、小規模な土地でターメリックの栽培をスタートし、収入を生み出す取り組みを行いました。結果的に、ターメリックの収穫が実現し収益を生み出すことができました。

ミャンマー避難民支援 ･･･ p.9

2022年度より緊急支援活動を実施してきたインド・ミゾラム州におけるミャンマー避難民支援は、2023年度にも一部実施いたしました。インド・ミゾラム州チャンパイ地区における食糧配布、および2台の雨水貯蔵タンクを設置しました。
また、ミゾラム州の概要、およびミゾラム州に逃れた避難民の出身地においてどのような被害が生じていたかというペーパー調査を実施し、Webサイトにて結果を公開しています。

バンダルバン避難民緊急食糧支援

2022年10月から発生した戦闘による政情不安定化により、地域住民は断続的に避難生活を余儀なくされています。また国際社会の関心と支援は極めて限られている状況がありました。そこで、ジュマ・ネットは３回にわたり緊急食糧支援を実施しました。のべ2,000名、約500世帯への配布を行いました。

平和を考える勉強会や発信活動

紛争や民族問題などの一般向け勉強会の開催、および情報発信を行いました。オンラインの勉強会は13回開催し、延べ200名ほどにご参加いただきました。
発信活動としては年3回の会報誌の発行、およびオンライン上でのレポート発行を実施いたしました。

事業報告　希望を求めて

ジュマの若者活動家ネットワーク構築

バングラデシュ全土で行われる総選挙まであと3ヶ月。ただでさえ暑い首都ダッカの熱気は、どこか一段とその迫力を増しているようでした。
「外国人はチッタゴン丘陵には入れないだろう。」
現地のカウンターパートにそう告げられました。総選挙を間近に控えたこの時期は、政治的緊張感が否応なく高まります。ただ、私はその言葉に意気消沈するわけではありませんでした。なぜなら、今回の最大の目的は首都ダッカでこそ果たせると考えていたからです。
今回、内紛の当事者グループ、それも若者世代へのアクセスをめざしてバングラデシュにやってきました。近年のチッタゴン丘陵における深刻な課題は、ジュマ内部での分裂と抗争が深刻化していることにあります。かつては同じ大義を掲げて歩んでいた仲間たちが、やがて決裂し、今では互いを傷つけあっている。その状況は痛ましいの一言に尽きます。さらに最近では、20代～30代の若者たちが当事者グループに入党していき、内紛の再生産へと向かっているのです。
「どうしても内紛を超えて分かち合うことはできないのだろうか。」
平和ボケと言われても頷くしかありませんが、それでも私は希望を胸にダッカの地にやってきたのでした。

2023年9月20日ー。私は指定された面会場所に向かっていました。すると道中、突然のスコールに見舞われます。道はあっという間に冠水し、いつもの渋滞です。どうせしばらく動かないと觀念して、車内でこれからの数時間のことを考えていました。
信頼できる第三者からの紹介とはいえ、どんな相手が待っているかはわかりません。もしかしたら政治に首を突っ込む外国人への策略を考えている可能性も否定できない中で、やや緊張も感じていました。そんな風にいつの間にか思慮に耽っていると、オート三輪のエンジンがかかり、また現実世界へと引き戻されました。
目的地にやっと到着し、傘をさしても意味がないほど強いゲリラ豪雨の中を走って建物へと向かいました。ドアをくぐり抜けると、効きすぎるほどのエアコンが濡れたTシャツを一気に冷やします。階段を登った2階で彼らは待っているとのことでした。

ダッカの雨はいつも突然。しばらく雨宿りをして雲が流れるのを待つ。

そこには、こちらをみて微笑んだ3人の顔が見えました。彼らは久々に友人に会うかのように優しい表情を浮かべ、握手を求めてきました。
「純粋で、人当たりが良い感じだな。」
それが率直な第一印象でした。
面会に応じてくれたのは、3名のUPDF（統一人民民主戦線）の若者メンバーたち。2人は男性、1人は女性でした。いわゆる”普通”の人たちであり、心優しい若者です。
互いに席につき、穏やかに面会が始まっていきます。それでも、最初の10分間はややお互いに緊張が見え隠れしました。どこから切り出すか迷いながらも、率直に私自身のこと、私がなぜやってきたのかということを伝えます。すると、その気持ちを察してくれたのか、彼らもオープンな姿勢へと変容してきました。少し肩の力を抜いて話せる空気が流れたことに、内心ホッとしたことを今も覚えています。

ひとことメモ：統一人民民主戦線 (UPDF)

1997年に締結された和平協定を不服とし、「完全自治」を標榜して1998年に結成された少数族政党。丘陵学生評議会（PCP）、丘陵人民評議会（PGP）、丘陵女性連盟（HWF）の協定反対派が母体となった。
分裂した背景もあり、PCJSS（詳細次ページ）とは事実上の敵対関係となっている。本記事における面会時にも、PCJSSはUPDFに対して非現実的な理想を掲げているという主張をしている。一方のUPDFは、PCJSSが独占的に政治を担っていることを主張している。

その声は、何を求めているのだろう

面会に応じてくれたメンバーらと。とても心優しい、ごく普通の若者である。

やがて最初に感じていた壁は薄らいでいき、互いにフランクな会話へと変わっていきました。しかしフレンドリーさの一方で、政治を語る彼らの言葉には穏やかさと熱が同居していました。

私は、率直に意見をぶつけてみることにしました。事実上の敵対関係にある政党のことをどう思っているのか、話し合うことは不可能なのかー。

しきりに彼らは、「あの政党は敵ではない」と主張します。本来は同じ思いを持っているのだと。

「ただ、拒否されている。」

その言葉が続きました。相手が拒否するのにどうして協力なんかできるんだという主張が繰り返されます。

たくさんの主張の中には、自らの被害性を語るシーンも何度かありました。マイノリティとして、社会のさまざまな場所で息苦しさを感じてきたのだなということを感じざるを得ませんでした。

今回、実は事実上の敵対関係にあるPCJSS（チッタゴン丘陵人民連帯協会）の若者メンバーとも同様の面会も行いました。彼らはUPDFのことを「同じジュマのために活動しているけれど、アプローチがちがう者達」だと表現しました。そして彼らもまた自らの被害性を口にしました。

どちらも、それぞれの視点からは正しいのです。でも、内紛は誰も望まない方向へと向かっている。一度動き出せば後には引けず、連鎖はもはや人の手ではどうにもできないほど大きくなっていく。そんなイメージが頭によぎりました。

ひとことメモ：チッタゴン丘陵人民連帯協会（PCJSS）

チッタゴン丘陵の少数民族政党。1975年から自治要求を掲げて政府と対立。やがてシャンティ・バヒニ（平和軍）という軍事部門を設立し、武力で抵抗した。1997年にCHT和平協定を結んで武装解除した。和平協定締結者のショントゥ・ラルマ氏は、現在も党首を務めている。11民族を結束させる「ジュマ民族」概念を作った。

共に歩むことはできるだろうか

それぞれの面会が終わった後は、どっと疲れが襲ってきました。それだけ気を張り詰めていたようです。すぐにでも横になりたいという気持ちにかられながら、再びオート三輪で帰路についていました。クラクションとバスの間をすり抜けながら走る車内で、私は面会の時間を改めて思い返していました。

今回の面会を通して、私の中でイメージが大きく変わったことがあります。それは**「内紛の当事者である彼らは、同時に痛みを抱えた一人の人間である」**という当たり前のことです。彼らは確かに政党に入り、渦中に今まさに踏み込もうとしていますが、同時に一人のマイノリティとして生きてきた歴史を背負っています。人知れない痛み、悲しみを抱えています。私にはそれを想像することしかできませんが、痛みを抱えながらも生きる彼らにリスペクトの気持ちが湧いてきました。私は彼らともっと話してみようと、一緒に未来を見据えてみたいと思いました。時間はかかるかもしれないし、信頼してもらえるかどうかは最後までわかりません。でも、共に歩んでみることはできないだろうか。そう思っています。

私たちは、ここから新たな一歩を踏み出します。彼らはすでに、平和を生み出す力を持っています。それを信じて、またこの地にやってきます。

帰り道の一コマ。変わらぬダッカの景色に少し安心した。

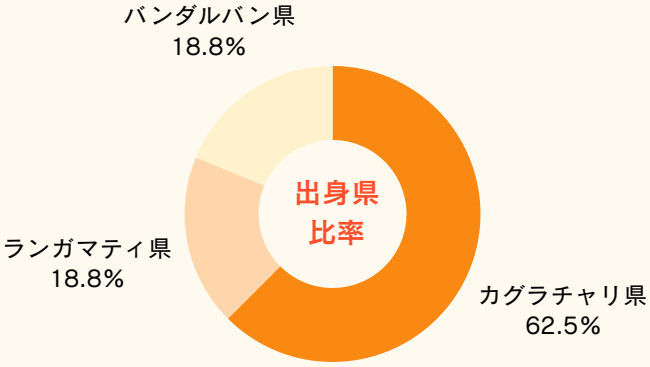
事業報告

紛争・内紛被害児童教育支援

チッタゴン丘陵の紛争によって被害に遭ってしまった子ども達を中心に、2007年から教育支援活動を実施しています。現地の寄宿舎学校と連携し、寮の生活費・授業料を支援しています。2023年度は16名の児童・生徒を支援しました。支援児童の情報は以下の通りです。（プライバシーの尊重はもちろんながら、同時に支援児童が抱える背景をより詳細にお伝えすることがチッタゴン丘陵の現状を知っていただくために必要なことだと考えています。そのため、個人が結びつく情報は排除してお伝えすることにいたしました。）

学年	人数（人）
1年生	1
4年生	1
5年生	2
6年生	1
7年生	2
8年生	1
10年生	2
中等教育試験受験生	2
11年生	2
12年生	1
大学1年生	1
合計	16

支援児童とのピクニックでの一コマ



訪問時には面談を行い生活状況を把握する

Focus　勉強を続けたい――自分の足で再び学校へ

支援児童のロビン君の父親は、かつて少数民族政党PCJSS（MN Larma派）の党員として4年間にわたり活動していました。そんな2022年7月、父親がカグラチャリ県への移動中に突然誘拐される事件が発生しました。
父は、敵対グループによって殺害されたとされています。しかし、今日もまだ遺体は発見されていません。

ロビン君の母親は現在、カグラチャリ県に住んでいます。ロビン君には兄弟がいて、今も母親と暮らしています。母親は村で日々苦労しながら生活していると聞いています。

ロビン君は3年生になり、本を読むようになりました。そんな姿を見て、母親は孤児となった子どもが教育を受けられるよう、支援を検討してほしいとモノゴールに相談しました。そこからジュマ・ネットともご縁があり、奨学金支援を開始しました。
ロビン君が抱える痛みが無くなるわけではないものの、まずは安心して生活できる環境で、思い切り勉強し、遊び、未来に希望を持てる環境を作っていくことが私たちの役割です。

ロビン君が学ぶモノゴールの教室の様子

特別インタビュー　元奨学生が日本で働く夢をめざして頑張っています！

話し手

現大学生
ルシヤ *仮名

聞き手

インターン
室田愛実

彼女のモノゴールでの生活は、2006年、彼女が8歳の頃から始まった。それまでは他の小学校に行っていたが、転校証明書を取得することができモノゴールに移った。
「ここには一生忘れられない良い思い出がたくさんあります。」友達とバルコニーで一緒に勉強したり、食事をしたり、4時に早起きしたり、先生に隠れて夜更かししたり、部屋の中で料理をしてみたり…！8年間の寮生活の中で、今でも親交の深い大切な友達に出会うことができた。
ジュマ・ネットに出会ったのも同じ2006年だった。家庭の経済状況から、ジュマ・ネットからの奨学金を受けながら学校に通っていた。当時ジュマ・ネットのメンバーを交えてピクニックに行った楽しい思い出を語ってくれた。高校卒業試験に合格後は、ダッカにキャンパスのある学校に通い、それ以降現在に至るまでダッカに住んでいる。2016年からは大学に進学し環境化学とマネジメントを学び、気候変動に強い関心を持つようになった。変わっていくチッタゴン丘陵の現状も語ってくれた。「この10年から15年でチッタゴン丘陵の生態系は大きく変わりました。しかしその問題にほとんどの人は気づけていないんです。」
現在は就職活動中ということだ。専門性を生かせるNGOや多国籍企業への就職が選択肢にあるなか、日本で働くことも選択肢の一つとして計画している。かねてから「日本に行きたい！」という想いを持つ彼女は日本語検定試験の勉強に励み、現在はN３レベルの勉強をしている。日本で働くか、それとも国内で専門性を生かせる職につくか…今後の計画を教えてくれた。現在もチッタゴン丘陵には家族に会うため、年に数回ほど訪れるという。努力家で真っ直ぐな彼女が今後どのように活躍していくか、とてもワクワクさせられた。

事業報告　キャリア教育支援活動

2023年度より、新たにキャリア教育支援を開始しました。これまで長く奨学金支援を実施する中で、一部の生徒は大学まで進学しています。支援が終了した後も自走して自らの人生を生きていけるようにという願いで、就職や社会の一員として生きることを視点に加えたプログラムの構築を始めています。

今年度は、まずキャリア教育の理解を深めるため、パートナー団体の寄宿舎学校教員が首都ダッカのキャリア教育先進校を訪問しました。日系の私立学校のキャリア教育カリキュラムや授業を見学すると共に、教員同士でのディスカッションを行いました。モノゴールでキャリア教育を実施するための知見と視点を得て、2024年度からカリキュラム構築に望みます。

事業報告　バンダルバン

ジュマ・ネット共同代表
下澤 嶽

バングラデシュ、チッタゴン丘陵バンダルバン県では、Nathan Loncheu Bawmに率いられるKuki-Chin National Front（KNF）という武装グループが、2021年からチッタゴン丘陵で活動を活性化させ、2022年4月17日にランガマティ県でエスニック・マイノリティ市民を2人、2022年6月21日に4人を殺害したのを皮切りに[i]、反政府的活動をエスカレートさせ、状況は悪化の一途をたどっている。

[i] 殺害された者は他の武装グループではなく、一般市民と言われている。

KNFの成り立ちと活発化

2008年		Kuki-Chin National Development Organizationの後継組織として、Nathanによって設立.
2016年		Kuki-Chin National Front（KNF）に改名. 当初は平和的な活動を行い、ミャンマー・チン州やインド・マニプール州と交流事業を手掛けた.
2022年	10月	バングラデシュ政府は、KNFがイスラム過激派に軍事訓練を提供している情報を得たとして捜索活動を展開. 7人のイスラム過激主義者、3人のKNFのメンバーを逮捕し、武器を押収する.
2023年	1月	KNFによって軍人1人が射殺される.
	3月	KNFによる身代金目的の拉致事件. KNFによる爆破事件.
	4月	KNFとUPDF民主派との間で銃撃戦があり、8名のKNFメンバーが殺害.
	5月	パトロール中の軍人2名が殺害、2名が負傷する事件が発生.
		軍の呼びかけで平和構築委員会が創設.
	6月	Rumaで爆発装置により軍の兵士1人が死亡、1人が負傷.
	7月	KNFとのオンライン会議が開催され、12月2日までの停戦合意が約束された.
	11月	1回目の対面会議.
2024年	3月	2回目の対面会議.
	4月	KNFによる銀行強盗事件発生(*)

第1期生では、100名以上のメンバーがマニプール州で研修を受けた。その後にゲリラ訓練を受けるようになり、訓練をうけた人数は3,000人～4,000人と言われ、Bawm、Khian、Pankua、Lushai、Mru、Khumiなどの6つの非主流派[1]のエスニック・グループによって構成される組織となったと言われている[2]。

訓練の代償としてKNFは、月30万タカをその過激派から受け取っていたと言われている[8]

しかし後日、CHT国際委員会は、この事件は政府に雇われたグループが誘拐されたBawn市民8人に軍服を着せ殺害したもので、偽装行為であると発表した。

こうした和平プロセスが進む片方で、バンダルバン地域ではKNFの暴力や恐喝、誘拐などがたびたび発生していた。特に、Marma[9]コミュニティとKNFとの対立構造が徐々に激化し、2024年2月13日には、Ruma郡でMarmaの村人がKNFに銃撃され入院する事件が発生し、14日はRuma市民協会の名のもとに数百人の人間の鎖による抗議運動が行われた。村人への暴行、恐喝、誘拐なども頻繁に日常的に発生し、村人の多くは巻き込まれることを恐れて、ジャングルでの生活を余儀なくされている。

2回目の会議では、KNFは和平プロセスの間、武器をとらず法執行機関に協力し、政府はKNFが故郷に戻れるように全力を尽くすこと、教育、健康、食料、雇用創出における生活改善のためのKNFの考える政策提案を当局に送ることが議論された。次回の会議で最終的な合意に至る議論をすることが決定され、前向きな議論が進んだ。

2021年当時のKNFの主張は「和平協定はChakma[3]らによる勝手な合意で、重要な役職も彼らによって独占されている」「チッタゴン丘陵はジュマランドでなく、Kuki, Chin[4]の領土である」とし、地図にあるように9つの郡と地区[5]をKuki-Chin州として独自の自治を与えることを主張している[6]。
また、片方でKNFは大きな武装グループとなっても、バングラデシュ政府や軍への攻撃はしないとも公言していた。
6つの民族で構成されているというが、バンダルバン県のKhianの地域のリーダーは、身近なもので参加した者はいないとも証言しており[7]、実態はBawmが中心のグループと思われる。

[1] これらの民族は、インドのミゾラム州、ミャンマーのチン州などの起源を持ち、キリスト教を信仰している。
[2] Parbattanews, 2022-11-4, https://en.parbattanews.com/new-separatist-group-set-to-emerge-in-chittagong-hill-tracts/
[3] チャクマはチッタゴン丘陵の11の民族で最大で、抵抗勢力の中心的民族である。
[4] Kuki, Chinは、ミャンマー・チン州、インド・ミゾラム州にルーツをもつ人々の総称。彼らのほとんどがバンダルバン県に住んでおり、人口も少なく、チッタゴン丘陵のエスニック・マイノリティの政治では中心的な役割を果たしてこなかった。
[5] ランガマティ県のBarkal郡、Juraichari郡、Bilaichari郡、Rawangchari郡、Chimbuk Hills、Ruma郡、Thanchi郡、Lama郡、Alikadam郡
[6] Hill Voice, 2022-5-30, https://hillvoice.net/en/army-backed-another-armed-group-kuki-chin-national-front-in-bandarban/
[7] Rajib Nur, BDnews24, 2022-6-30, https://bdnews24.com/bangladesh/in-chattogram-hill-tracts-a-new-group-of-armed-insurgents-is-making-waves.-who-are-they
[8] The Daily Star, 2022-10-22, https://www.thedailystar.net/news/bangladesh/news/militants-given-arms-training-hills-rab-3148811
[9] CHTで2番目に人口が多いミャンマーのラカイン州を起源とする民族で、1997年の和平協定の推進勢力の一つである。

KNFによる銀行強盗事件

和平交渉が続くさなか、4月2日の夜、武装化した20 名近いKNFがタンチー市のKrishi Bank, Sonali Bankに押し入り、現金およそ100万トルコクローネ、60万タカ、14丁の銃と415発の弾薬、店員や客から携帯電話を奪う事件が発生した。またSonali銀行マネジャーを誘拐し、4月4日に身代金と引き換えにマネジャーを解放した。

この事件を受けて、4月4日バングラデシュ平和構築委員会は、KNFとの和平交渉の中断を発表した。4月5日には、バングラデシュの治安部隊と、陸軍、警察、バングラデシュBGB、RABなどの法執行機関は、バンダルバンで合同作戦を開始した 。4月7日に、合同作戦部隊は、KNFの幹部であるCheosim Bawmを逮捕、さらに4月8日は女性18人を含む、54人のKNFメンバーを逮捕した。その後逮捕者が徐々に上乗せされ、4月22日までに111人が合同部隊によって逮捕された。そのうち、4人は子供で、5人はKNF関係者、残りが一般人と言われている。これらの逮捕者のうち23人が拘束後に釈放されているが、残りの人々はまだ拘束されている。逮捕された人びとが無実であると言う主張が関連団体から出されている[10]。KNFのFacebookでも、無実の住民が逮捕されていると写真入りの投稿がされている。また、銀行強盗事件の現場は軍と警察のキャンプに近いにもかかわらず、事件直後、軍は何も手を出さず、数日後作戦を開始しており、意図的な対応があったのではないかという情報も出ている[11]。

こうした軍の対応の中、4月19日にKNFの銃撃があり、軍人１人が死亡、2人が重傷を負う事件があり[12]、4月29日にも軍とKNFの銃撃戦でKNFメンバーが2名死亡しており、まったく状況の改善の様子は見られない。

防犯カメラに映る犯行中のKNF（Protom Alo）

Cheosim・Bawm(55)が逮捕される（Protom Alo）

理解が難しいKNFの政治主張と行動

CHTの関係者は、人口数の少ないBawm民族が、突然武装グループを立ち上げたことに不自然さを感じる者が多く、要求内容も唐突で違和感を訴えている。彼らが反和平協定、反Chakmaを強く打ち出していることからも、Directorate General of Forces Intelligence（DGFI）が仕組んだもので、エスニック・マイノリティの内紛をさらに複雑にするための工作ではないかという声も多い。もしそうであれば、彼らは軍人を攻撃するのか。一部の専門家たちの推測では、軍の側がKNFを使ってエスニック・マイノリティの内紛工作を仕掛けたが、KNFが資金目当てにイスラム過激派と接触するという予想しない独自の行動に出たため、中央政府のテロ対策部隊が動きだし、国内の政治問題に発展した。国際社会の目を気にした軍は、一転してKNFへの対抗姿勢を演じているのではないか、という見方も噂されている。

また、いかにも和平交渉に臨むようなKNFの姿勢と、片方で銀行強盗、恐喝、誘拐、軍人の殺害などを続けるKNFの姿に、一貫した政治的姿勢が見られず、こうした姿勢に対して、現時点ではBawmコミュニティからも見放された状況である。

またエスニック・マイノリティの既存政党であるPCJSS、UPDFはこれらの動向にほとんどコメントをしておらず、静観している状況だ。

最大の被害者は地域住民

この2年間の事態の中で、最大の被害者は言うまでもなく地域住民である。KNFからの暴力や恐喝、誘拐だけでなく、軍の捜索活動上で不当なハラスメントやポーター徴用のリスクにさらされ、UPDF民主派などの不可解な暴力介入にもさらされている。また、KNFと疑いをかけられ逮捕、拷問にあう可能性の中でおびえて暮らしている。住民の多くは事件のかかわりを避けて、周辺のジャングルでの生活を続けており、その数は8000人近いと言われている。

4月8日に逮捕、連行される地域の人々（Hill Voice）

[10] Hill Voice, 2024-4-29, https://hillvoice.net/en/2-knf-members-killed-in-shootout-with-army/
[11] Hill Voice, 2024-4-10, https://hillvoice.net/en/54-men-women-of-bawm-villagers-arrested-in-ruma-most-of-them-innocent/
[12] Hill Voice, 2024-4-19, https://hillvoice.net/en/1-army-person-killed-2-injured-by-knf-shots-in-ruma/

事業報告　ミャンマー避難民支援

2021年2月にミャンマーで軍事クーデターが発生して以来、インド・ミゾラム州には3万人とも言われる避難民が逃れています。しかしアクセスが困難なことや、そもそも政治的緊張感が高い地域であることから国際社会の支援は限定され、注目が集まらない状況が続いていました。そこでジュマ・ネットは2022年度より、インド・ミゾラム州に逃れたミャンマー避難民（多くはミャンマー西部のチン州から流入）への食糧支援を実施してきました。2022年度実施の支援の一部が継続実施されましたのでご報告します。

活動報告①

避難民キャンプへの水タンク設置

2023年2月から5月にかけて、食糧配布支援および水タンクの設置を行いました。水タンクは雨水を貯水し、フィルタを通して飲料水に活用するものです。

活動報告②

レポート作成と発信

日本語での情報が比較的少ないインド・ミゾラム州の概況をまとめると共に、ミャンマー避難民や関連アクターの整理を行いました。ミゾラム州やミャンマー避難民の状況をより多くの方に知っていただけるよう、ジュマ・ネットWebサイトにて公開しております

Focus　避難民の状況

ミゾラム州で暮らす避難民の多くは、依然として厳しい状況での生活を余儀なくされています。現地NGOや青年組織、また一部の国際NGOの支援が実施されることもありましたが、避難生活の長期化で支援活動も難しい状況となっています。食糧支援は2023年5月をもって終了いたしましたが、現在もパートナーNGOとコミュニケーションを継続して現地情報を収集しています。

事業報告　被害家族再建・自立支援

2023年度は被害児童の支援に加え、その家族の経済自立支援を併せて実施しました。家族の構成や状況に即した支援内容を家族、カウンターパート、ジュマ・ネットの三者で協議し、2023年度は1家族を対象に実施しました。
保護者との協議のもと、ターメリックの栽培を開始することを決定し、ジュマ・ネットは栽培に必要な整備費、種の購入費用を支援しました。結果、無事収穫を迎えることができ、利益を創出することができました。今年の収穫の利益と保管したターメリックを用いて、次期の栽培に挑戦しています。

2023年度 活動計算書

【税込】単位：円

経常収支の部	2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）
科目	金額
経常収入	
受取会費	278,000
受取寄付金	1,661,864 ＊1
受取助成金	1,850,000 ＊2
謝金	60,500
受取利息収入	13
経常収入　計	3,850,377
事業費	
海外事業費	2,508,042
旅費交通費	473,579
消耗品費	0
支払い手数料	9,510
印刷製本費	64,320
賃貸料	0
当期事業費　計	3,167,631
合計	3,167,631
事業費　計	3,167,631
管理費	
人件費	660,000
旅費交通費	0
通信運搬費	12,840
印刷製本費	23,510
賃貸料	85,376
支払手数料	6,919
地代・家賃	18,000
雑費	10,000
管理費　計	816,645
支出合計	3,984,276
経常収支差額	-133,899
前期繰越収支差額	5,740,195
時期繰越収支差額	5,606,296

Notes＊1
全国友の会中央部様の団体寄付を含む

Notes＊2
アーユス仏教国際協力ネットワーク様（時局対応支援）
WE21ジャパン地域団体様
公益信託今井記念海外協力基金様

2023年度　貸借対照表

【税込】単位：円

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		**流動負債**	
現金	66,766	仮受金	0
当座預金	3,457,521	流動負債　計	0
普通預金	2,080,252	負産の部合計	0
現金・預金　計	5,604,539	正味財産の部	
		正味財産	
その他流動資産	0	正味財産	3,005,326
仮払金	288	（うち当期正味財産増加額）	2,420,520
貸倒引当金	△178,981	正味財産　計	5,425,846
流動資産合計	5,425,846	正味財産の部合計	5,425,846
資産の部合計	5,425,846	負債・正味財産の部合計	5,425,846

すべての抑圧されるエスニック・マイノリティのために

ジュマ・ネット

団体名	ジュマ・ネット
住所	〒132-0033 東京都江戸川区東小松川3-35-13-204 小松川市民ファーム内
メール	info@jummanet.org
電話	03-3655-1005
理事	下澤 嶽　トム・エスキルセン 安達 淳哉　木村 真希子　日下部 尚徳
監事	今村 公保　井口 由美子